

看護学部看護学科 アセスメントプラン

アセスメントの方針

建学の精神並びに教育の目的に沿った教育活動を実施できているかを確認し、教育活動の成果と課題の発見に資することを目的として、学修成果のアセスメントを行う。学修成果に加えて、その過程となる学修意欲や学修行動もアセスメントに含む。これらのアセスメントにより、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達状況を把握する。ディプロマ・ポリシーの到達状況は卒業時の学修成果や卒業後の自己並びに社会的評価、カリキュラム・ポリシーの到達状況はカリキュラムの実施状況及び各授業科目における学生の学修成果等をもとにディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗、アドミッション・ポリシーの到達状況は入学者の資質・能力を確認する。

アセスメントは、学生の成果物等に基づき「何ができるか（アウトカム）」を評価する直接評価と、学生の自己評価に基づき「何ができると思っているか（アウトカム）」、「どのように学修しているか（アウトプット）」を評価する間接評価に基づき行う。学生全体だけでなく個々の学生の状況についても、経年的かつ多面的に把握する。

アセスメントの方法

No.	名称	対象	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	実施責任部署	結果の活用方法
1	DPルーブリック	DP1-5	毎年度末等	全学年	卒業研究等の学修成果	教務委員会	看護学部アカデミック・アドバイジング制度を活用し評価を行う。授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用。各科目の実施結果を看護学部教務委員会にて審議し、教授会で再考する
2	実習ルーブリック	DP1-5	毎年度末等	全学年	実習等の学修成果	実習委員会	実習方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用。各科目の実施結果を看護学部実習委員会にて審議し、教務委員会及び教授会で再考する
3	卒業論文・卒業研究等ルーブリック	DP	毎年度末等	卒業学年	卒業論文・卒業研究等の学修成果	教務委員会	個々の教員が評価を行い、結果を看護学部教務委員会で集約し、看護学部の授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
4	卒業アンケート（全国学生調査の最終年次）	DP1-5	毎年1回	卒業学年	学修経験、学修行動、習得した能力、大学の満足度	教務委員会、学生支援委員会	看護学部教務委員会が呼びかけ調査し、結果はIR・教育支援センターが教学運営会議に報告し、看護学部教務委員会で審議後、教授会で再考する。看護学部のカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用

5	卒業生の進路状況	DP1 ～4	毎年1回	卒業学年	卒業生の進路(就職率、有力企業就職率、進学率)	学生支援委員会	看護学部学生支援委員会が呼びかけ調査し、キャリアセンターが看護学部へ報告し、看護学部教務委員会及び学生支援委員会において審議し、就職支援の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
6	卒業生調査	DP1 ～4	毎年1回	卒業後1年以上経過の卒業生	現在の就業状況、大学に対する満足度、大学で身についた能力、授業や教育プログラムへの意見・要望	教務委員会	看護学部教務委員会が呼びかけ調査し、IR・教育支援センターが看護学部並びに教学運営会議に報告し、看護学部のカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
7	就職先アンケート	DP1 ～4	毎年1回	卒業生就職先※数名の採用実績がある企業	在籍する卒業生の活躍から、近畿大学のDP達成度や強み・弱みなどをアンケート聴取	教務委員会	看護学部教務委員会が呼びかけ調査し、IR・教育支援センターが看護学部並びに教学運営会議に報告し、看護学部のカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
8	アカデミック・アドバイザーとの面談及び学生生活アンケート	CP/ DP1 ～2	毎年2回 (前期、後期)	全学年	学修行動、授業・カリキュラム満足度学生生活に関する要望等	学生支援委員会	看護学部 学生支援委員会で実施するアカデミック・アドバイザー制度を活用し、事前にアンケート調査を行う。実施後に学生部で報告書を集約【学修行動、授業・カリキュラム満足度に関する意見】IR・教育支援センターに連携し、その内容をもとに授業方法やカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価に活用【学生生活に関する要望】学生部にて内容を精査し、学修・生活環境の改善、自己点検・評価に活用
9	授業評価アンケート	CP	毎学期1回	全学年	学修行動、授業の理解度、満足度	教務委員会	看護学部教務委員会は、看護学部実施分の結果を集計し、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用。IR・教育支援センターが全学部分の結果をとりまとめ
10	成績等授業評価調査	CP	毎学期1回	全学年	各授業活動等学習ポートフォリオ内データ、GPA、単位修得状況、成績分布、出席状況	学生支援委員会	看護学部 学生支援委員会で実施するアカデミック・アドバイザー制度を活用し、学生に対する面談を実施し、修学及び学修支援、自学部のカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
11	成績不振学生、休退学の	CP	毎学期1回(成績不	全学年	学業不振の状況(GPA、修得単位数、留年者数)、休学者	教務委員会、学生支	看護学部 学生支援委員会で実施するアカデミック・アドバイザー制度を活用し、学生に対する面

	調査		振)、随時 (休退学)		数、退学者数	援委員会	談を実施し、修学及び学修支援、自学部のカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
12	全国学生調査 (2年次)	CP	毎年1回	2年生	学修経験、学修行動、習得した能力、大学の印象	学生支援委員会	看護学部学生支援委員会が呼びかけ調査し、IR・教育支援センターが看護学部並びに教学運営会議に報告し、看護学部の授業方法やカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用。データは看護学部学生支援委員会にて審議し、教務委員会及び教授会で再考する
13	GPS-Academic (3年次を基本)	CP	毎年1回	原則3年生	学修行動、授業・カリキュラム満足度	教務委員会、学生支援委員会、自己点検・評価委員会	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者が看護学部等に報告し、全学的なキャリア支援、看護学部の授業方法やカリキュラム改善、学修支援や低学年時における学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
14	学生生活実態調査	CP	隔年9～10月頃	全学年	学生生活、課外活動の経験、学修行動、大学に対する評価	学生支援委員会・自己点検評価委員会	看護学部学生支援委員会がIR・教育支援センターに報告し、看護学部のカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
15	各種プログラム参加実績調査	CP	毎年度末	全学年	ボランティア単位認定実績 インターンシップ単位認定実績、資格講座開催・出席実績、資格取得状況、単位互換制度実績、文理融合科目開講・受講実績	教務委員会	看護学部教務委員会において、自学部実施分の結果を集計し、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用。IR・教育支援センターが全学部分の結果をとりまとめ
16	学外組織連携	CP	毎年度末	全学年	学外組織連携プログラム実績、ボランティア活動実績	広報・社会連携委員会	看護学部 広報・社会連携委員会において、自学部実施分の結果を集計し、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用。IR・教育支援センターが全学部分の結果をとりまとめ
17	国際交流、留学	CP	毎年度末1回	全学年	留学意識調査、留学プログラム参加実績、国際インタ	国際交流委員会	看護学部国際交流委員会が、自学部実施分の結果を集計し、授業方法やカリキュラム改善、自己点

					オンシップ参加実績		検・評価に活用。IR・教育支援センターが全学部分の結果をとりまとめ
18	入学試験	AP	毎年	入学志願者	大学での学修に必要な基礎学力	看護学部 入試委員会	入学センターが大学協議会や各学部等に報告し、入学試験の改善、入学者の現状把握に活用。その後看護学部入試委員会において審議し、教授会で再考する。これには看護学部の独自入試を含む
19	GPS-Academic (1年次)	AP	毎年 4～5 月頃	1年生	本学への満足度、入学前の学習状況、海外留学の意識、卒業後の進路	看護学部 教務委員会	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者が看護学部等に報告し、入学時点の汎用的能力の把握、今後の学修支援、自己点検・評価、情報公開に活用。e-ポートフォリオで収集、その後自己点検・評価委員会において、分析、カリキュラム改善等に活用する。報告を受けたデータは、看護学部教務委員会にて審議し、教授会で再考する
20	TOEIC Bridge プレイスマン トテスト	AP	毎年	1年生	TOEIC Bridge プレイスマン トテスト	教務委員会	看護学部教務委員会は入学時点の英語習熟度を把握し、習熟度別語学教育のクラス分け及び、留学の際の学部内の選考基準、入試基準の評価等に活用
21	入学前教育プ ログラム	AP	毎年	1年生	受講率、テスト成績等	教務委員会	看護学部教務委員会は、入学時点での生物・科学等の基礎能力習熟度を把握し、その後の人体解剖生理等の科目でのサポート等に活用。分析及び入学前教育プログラム内容等の検討は教務委員会が行う。

以上